

きらり おばま 人

泊の歴史を知る会



市と共催の「平和と環境を考える日韓友好のつどい」
(6月15日・泊区の韓国船救護記念碑前)

二十戸余りの小さな漁村、泊区。小さいがゆえに区民どうしの結びつきが強く、まとまりのある区ですが、近年、伝統行事が廃れるなど、徐々に区民のふるさと意識が薄らいできているようです。このため、ふるさとの崩壊に危機感を持った区の有志が、平成七年に「泊の歴史を知る会」を結成しました。「県外に住む泊出身者の、ふるさとを思う気持ちや自分たちを動かしたんです」と同会事務局の大森和良さん。泊の歴史・自然・文化・生活などを大切にするとともに次世代に伝えていくため、区のみならず、ふるさとを「知る」ことから活動を始めたそうです。

泊の歴史・自然・文化・生活を大切にしたい

「最初は区内の史跡巡り、そして歴史を学ぶ自主講座の開催や資料収集、かわらばんやカレンダー作りなどを行いました。区民のみんなも、少しずつ関心を抱くようになってきました」
集めた資料で最も多かったのが、明治三十三年(一九〇〇)年の「韓国船救護」についてのものでした。二年間調べた末、平成九年に「韓国船遭難救護の記録」を自費出版。この本を読んで感動した韓国の大学教授が泊区を訪問して交流が始まり、救護からちょうど百年後の二〇〇〇年に、百周年記念事業を盛大に開催しました。
「救護の現場を望む海岸に記念碑を建立し、絵本「風の吹いてきた村」を出版しました。以後、韓国の高校生が毎年訪れるようになるなど、文字どおり国際交流の風が吹いてきたんです」と大森さん。国内からも多くの人が泊区を来訪するようになりました。
「ふるさとを知る、そして大切にしよう」というのが会の出発点。「看板の設置」「泊よいとこまつぶの作製」などもその一環です。区民みんなの力で美しくなったふるさと泊を、多くの方に知っていただきたいですね」
笑顔あふれる小さな漁村では、今日も新しい出会いや交流が生まれます。

●あなたの周りの「きらり輝いている人」「生き生きしている人(グループも歓迎)」を紹介してください。 市長室 ☎53・1111 内線325

平成の名水百選に 「雲城水」



飲料水として市民や観光客などから広く利用されている雲城水。毎日100人以上が訪れるそうです

雲城水は、小浜市と滋賀県高島市境の百里ヶ岳に降った雨が地中にしみこみ、約百年かけて地表に出てくると考えられています。水は地下三十メートルからわき出ており、水温は一年を通して十三℃。海岸至近にありながら塩分がなく、また水量が豊富であるため、近所の人はもちろん市外からも多くの人が訪れ、飲料水として利用しています。
地元住民らで構成する保全団体「一番町振興組合」が中心となり、雲城水公園やその周辺の清掃を行っているほか、最近では

●平成の名水百選 環境省が水環境保全の推進を目的に、地域の生活に溶け込んでいる清潔な水や水環境の中で、特に地域住民などによる主体的かつ持続的な水環境の保全活動が行われているものを選定した

俳句

小浜市俳句作家協会

成るがま、落つるがま、に枇杷小粒
山王前一丁目 船上 照江
忌を修し余す日の内梅をもぐ
山手二丁目 井上ひさの
日盛りや一樹の陰を分かち合
太良庄 高鳥 久美

短歌

音無川短歌会

隣家の木を鋭くも傷つけし
池田 山本 保子
雄鹿の角を藪に見つける
池田 山本 保子
やはきとこ虫に食べさせ穴あきの
間引き菜朝のみそ汁に浮く
多田 山田 弘子
城南宮曲水の宴のなかにあて
古の代に暫し浸りぬ
池田 青木 哲子

山柳

若狭湾山柳舎

大器遣伝子レントゲンには写らない
大湊 森松 ひろ
ペット飼うきつと大人の玩具だろ
小浜酒井 清水 久子
私に完成と言う鞭をうつ
千種二丁目 安藤ふみ枝

広告

広告

広告

広告

広告

広告